

【第12回宮城県総合教育会議】

教育等の振興に関する施策の大綱の推進についての意見書

1 子供の居場所づくりについて

学校に登校していない児童生徒が増加する中、子供たちが安全で安心して過ごせる居場所を持ちながら、様々な学びや多様な体験活動の機会に接することができる環境整備が重要となっている。

県教育委員会では、学校が教育支援センター等と連携し、学校に登校していない児童生徒の学びの機会を確保できるよう、市町村教育委員会を支援しているところであるが、様々な困難や悩みを抱える子供の居場所づくりという観点から、知事部局でもフリースクールやNPO団体等の民間施設との連携や支援を通じて、子供たちに多様な教育機会を提供できる環境づくりを進めていただきたい。

2 産業人材の育成について

地域の持続的な発展を支える人材を育成していくためには、発達の段階に応じたキャリア教育の充実が求められ、特に、学校と産業界、高等教育機関などが一体となった産業教育の推進が重要であり、世界的な半導体企業の県内進出も控えている中、産業界のニーズを踏まえた魅力ある専門学科・専門高校づくりを進めていく必要がある。

県教育委員会では、産業界や大学等と連携・協働し、将来の本県産業を支える人材の育成を見据えながら教育施策を展開しているところであるが、富県宮城の更なる推進に向け、学校における外部人材の活用や学校に求める人材像の明示、企業等へのインターンシップの充実など、地域において学校と産業界の連携・協働の一層の強化が図られるよう、産業界や大学等への働きかけをお願いしたい。

また、キャリア教育の充実に向けては、児童生徒が社会問題や地域課題に触れ、その解決に向けて自ら考え、行動することが重要であることから、こうした課題等の解決に取り組んでいる様々な職業や専門性に触れることができる機会を増やしていただきたい。